

産「消」グリーン共創

——都市と農村を結ぶグリーンツーリズムと有機農業——

齋藤 實 男
国 狭 武 己
江 口 傳

目 次

- 第I編 グリーン・コミュニティ・ツーリズム (齋藤實男)
第II編 九州各地の過疎対策に関する実態調査および研究 (国狭武己)
第III編 九州における有機農業の展開 (江口 傳)

まえがき

我々都市「消費」者は、このまま食を職のための手段とし、ファーストフードに満足したままで良いのか。いかに、スローフードを食し、生産者とともに、グレイな産「消」関係を改め、グリーンな産「消」関係を、産「消」の深い共同意識をもって共創し、それをコミュニティまで高め、CSA (Community Supported Agriculture [=Agriculture Supported by Community: 地域によって支えられた農業]) 運動を盛り上げてゆくか。そのコミュニティの風通しをどのように良くし、自由と開放感を維持してゆくか。

とりわけ、環境保全のために、いかにして都市の農畜水産物の「消費」者と農村のそれらの生産者を結ぶか。その結合・交流の一手段としての、グリーンツーリズムと有機農業体験、有機農産物の産「消」間の顔の見える流通は、農場や宿泊施設の経営・生産流通管理・グリーンマーケティングコミュニケーションから見て、現在どのように進展し、いかなる課題を抱えているのか。我々は、最終的には農村に居住し、自給生活をするのが理想ではないのか。その理想を目指しつつ、自ら住む都市と農村とをいかに架橋しグリー

ンプロシューマリズムを強化するか。

その架橋のし方は、都市生活者主体としての有機農家・民宿との間の社会的距離を埋める、プロシューマリズム・参画の進展度・強度、I.点(個人間)→II.線(グループ間、農村コミュニティ個人間)→III.面(地域コミュニティ間社会制度・究極のCSA)の進捗・スパイラルアップに関わる。

本報告書では、1.プロシューマリズムの強度(都市生活主体にとって)のタイプ分類、2.コミュニティの互惠(集団主義)と個人の気楽さ・集団の面倒くささ(個人主義)との二律背反性に着目し、グリーンツーリズムを分析し、I.点→II.線→III.面の発展の指標には、経営学的な(1)企画(2)カネ(3)ヒト(4)モノ・コト(5)コミュニケーション通信網/その整備と頻度(6)場と場(7)フィードバック相乗波及効果(遊路)(8)文化共創、以上8項目を使う。

特に、このヒト・人材育成を市民運動的な発展と関わらせ、I.点→II.線→III.面の発展を、運動論的な「休眠・萌芽・発展・完成(重松)」進化と二重写しにする。それは、マンツィーニの「Relieving(ヒトがやってもらう)」から「Enabling(ヒトがやってみる)」というEnablingのプロシューマリズムの発展過程である。この発展段階：作付け会議——食卓を共に——農産物販売——交流・資金持ち寄り等のそれぞれのスパイラルアップの段階毎に、チャーター・マーチンの言う「サステイナブルデザインの主要要素：機能性・社会的人間的環境内ファクターの考慮・環境問題解決の統合・環境効率性・自然との共生的作業・システム志向・利害関係者志向・

LCA・包括性・ゼロエミッション」(山本 p.308) シム・ヴァンダーリンの「エコデザインの5原則: 1.場の緯度「答えは場所に」、2.場と場のバランス「エコ収支に基づくデザイン」、3.場の生態系「自然の仕組み(内)デザイン」、4.場に万人「誰もがデザイナー」、5.場と場の連結「自然の視覚化」(山本良一 p.309) が相互に関連する。

本稿は、このような問題意識を3人の共同研究者が、共有し、上の交流(グリーンツーリズムと有機農業体験, 有機農産物の産「消」間の顔の見える流通)の行われている現地に足を運び、インタビューや活字媒体を通して、情報・資料収集したものである。第I編「産「消」のグリーンコミュニティ共創」は、グリーンコミュニティ, グリーンコミュニティ・マーケティングミックス(4Co [Community]: Contents/Costing/Corridor/Communication) の観点から、グリー

ンツーリズムの分析枠組みを模索し、コミュニティ原理論を再考し、それを基礎にした屋久島・水俣などのグリーンツーリズムの現状を、そのコミュニティ間とツーリストに対するその受け入れ先(有機農家・民宿等)のグリーンマーケティングコミュニケーションを中心に分析する。第II編「九州各地の過疎対策に関する実態調査および研究」は、大分県・宮崎県等の過疎地域の振興について論じ、第III編「九州における有機農業の展開」は、その草分けの福岡市の「命とくらしを守る会(医師安藤孫衛代表)」の長年の福岡県前原町の有機農家と福岡市の会員との提携と市民向け医食同源の啓蒙活動を紹介し、そのNPOの経営や医食同源の熊本県菊池市の「菊池養生園(医師竹熊宣孝代表)」の有機農業・有機農畜産物自給運動を通じた医食同源のコミュニティ医療活動を紹介する。